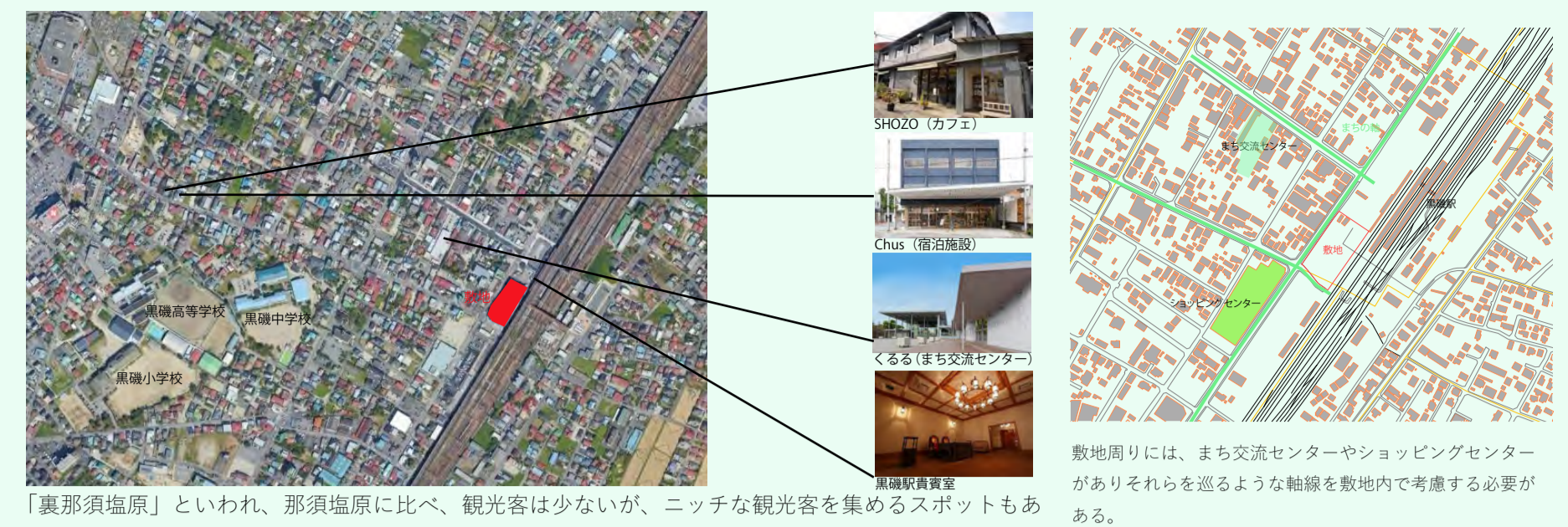
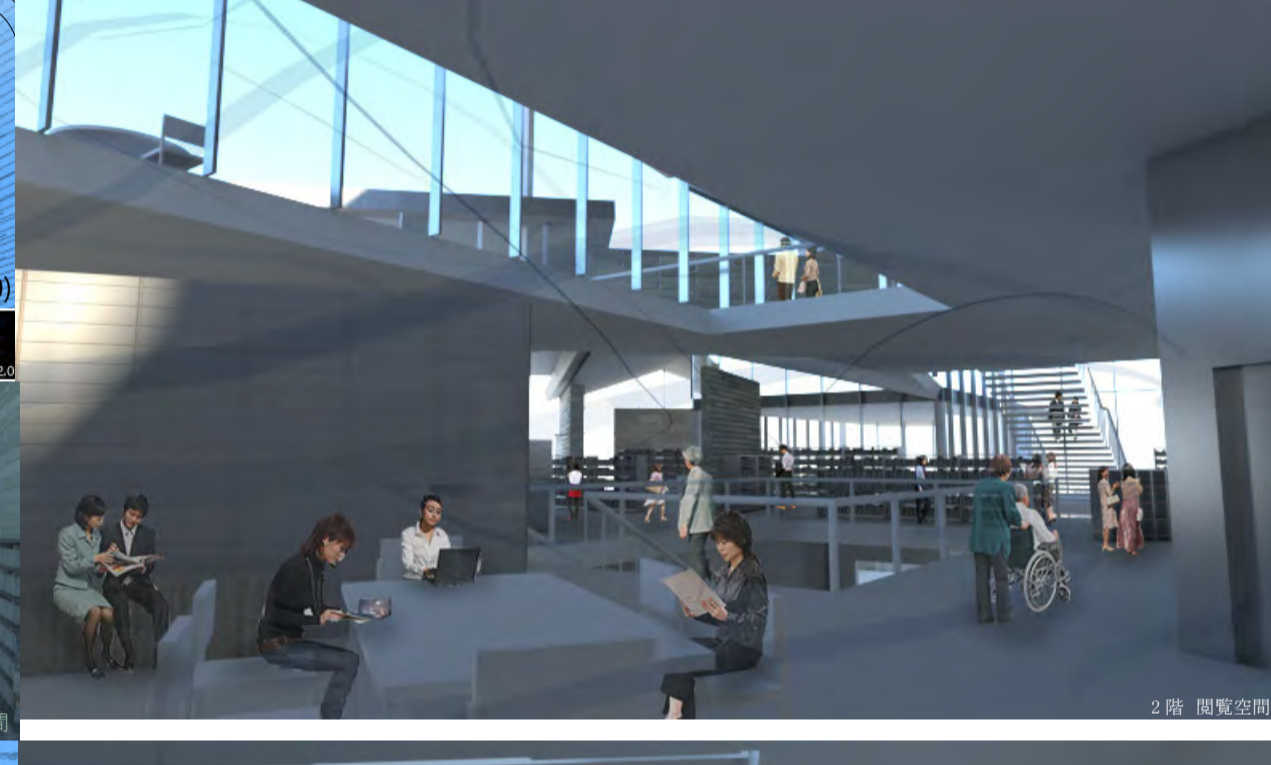
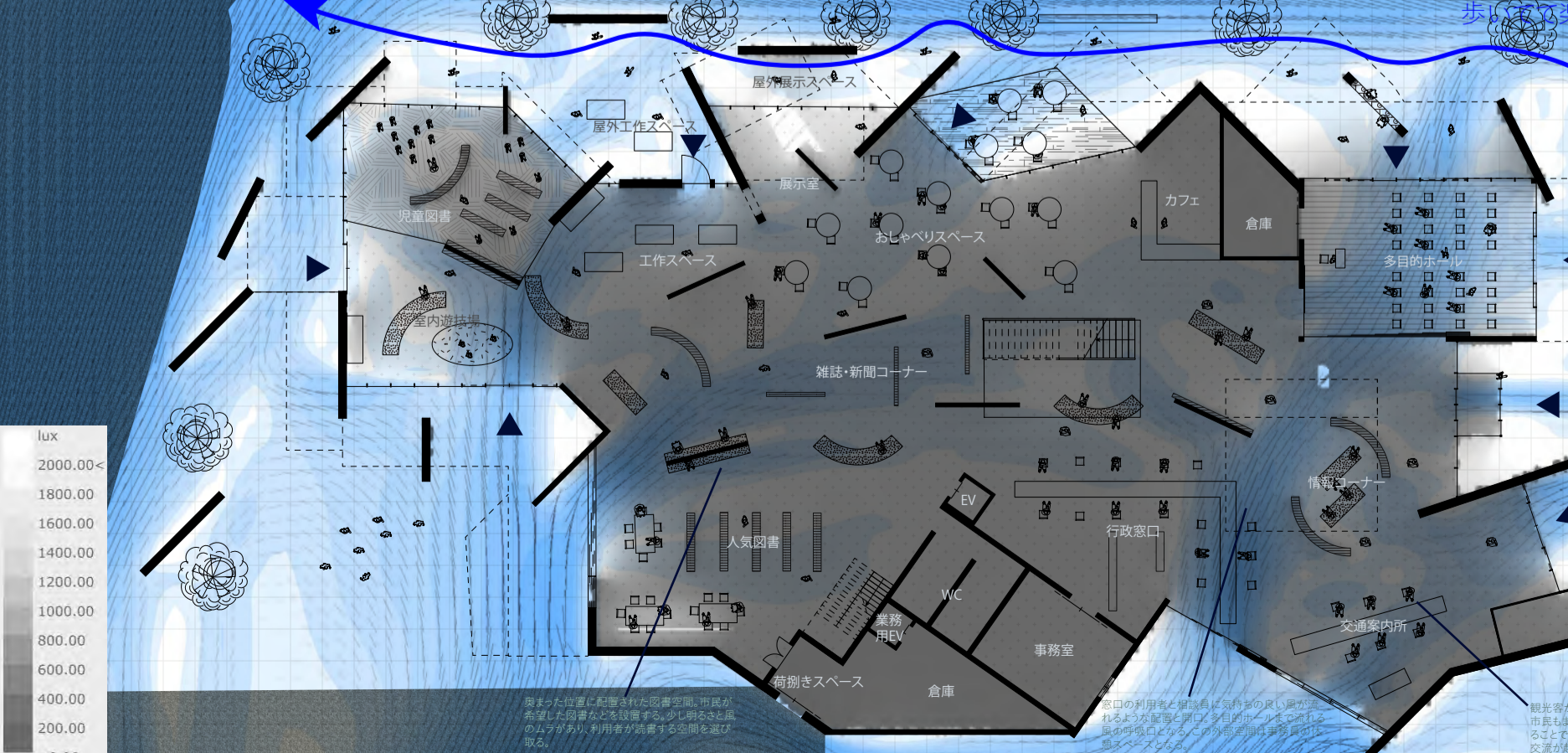
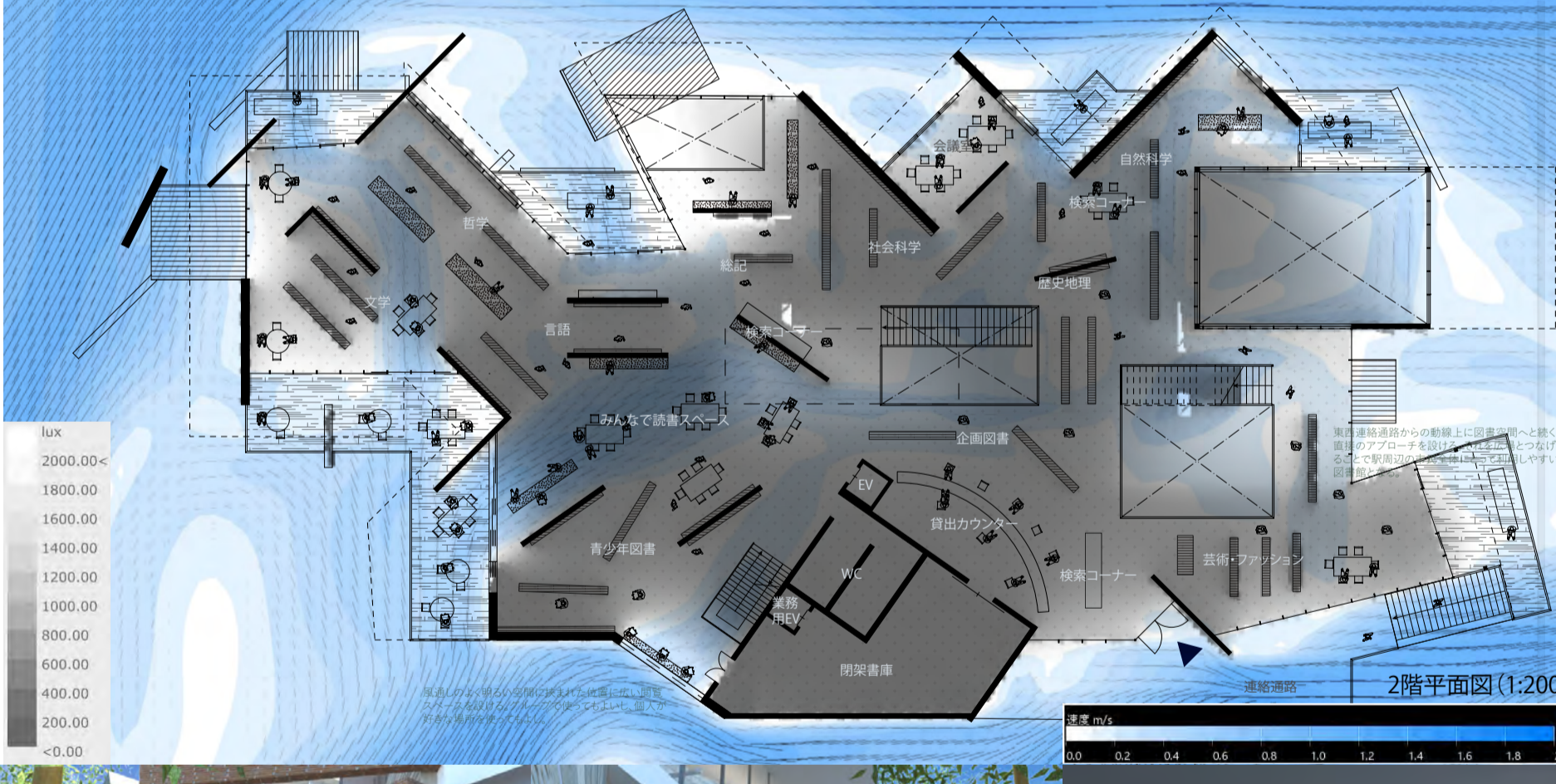
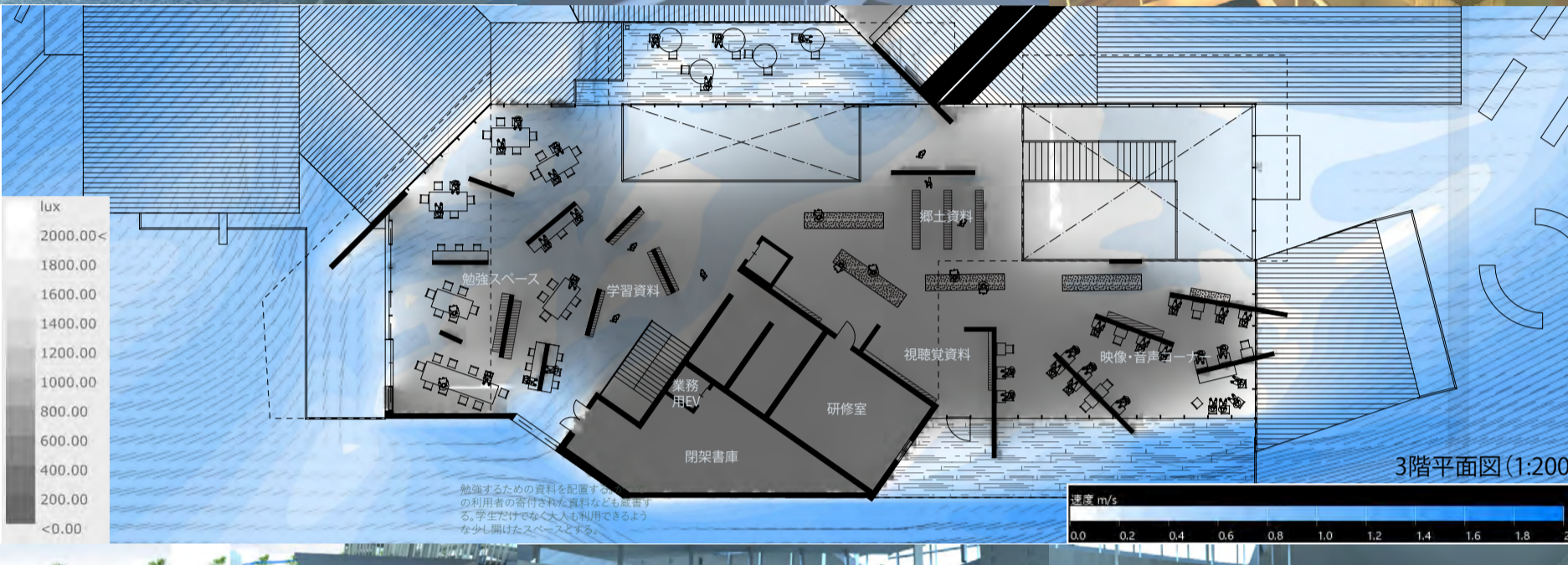


落ち着いたまち、黒磯 周辺地域について



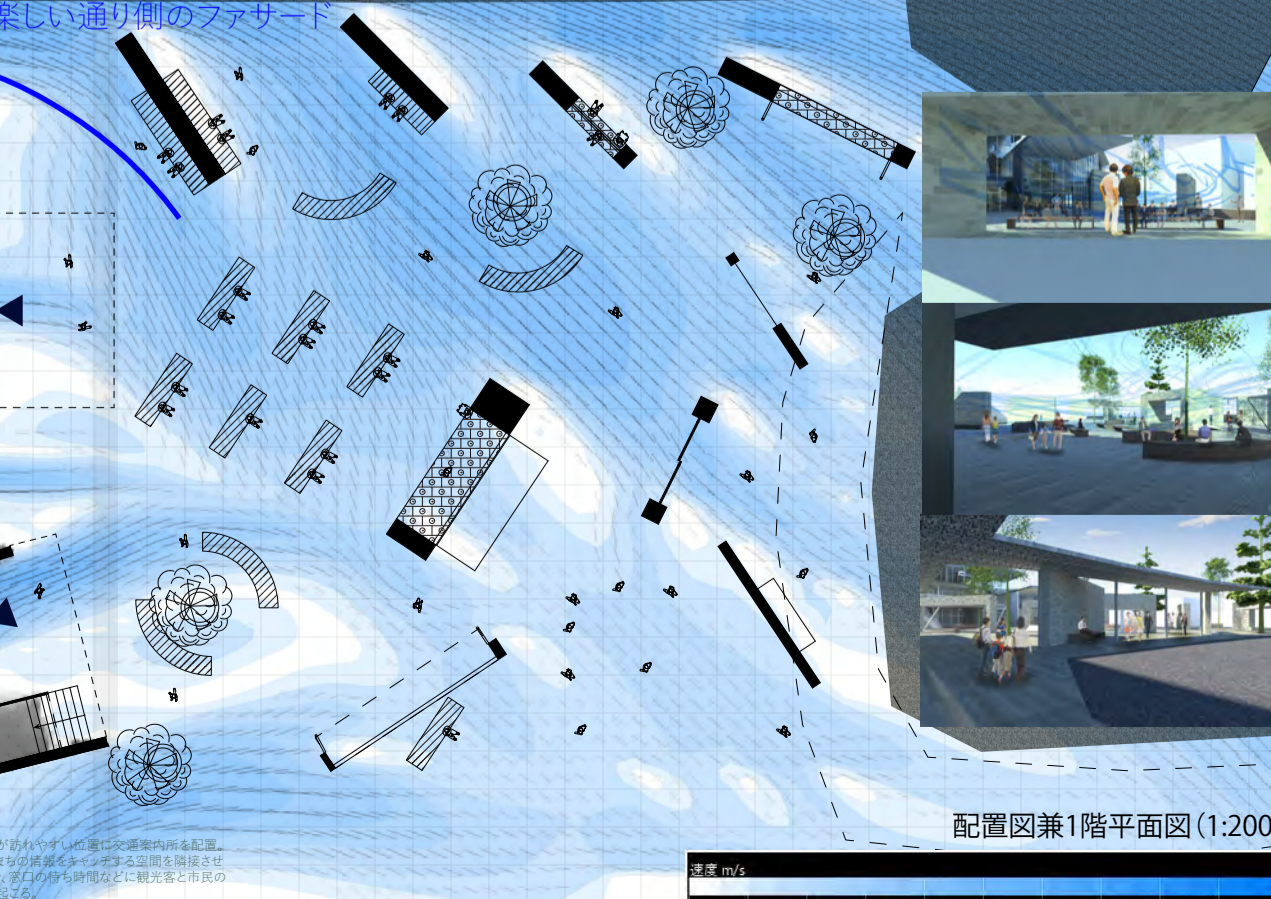
「裏那須塩原」といわれ、那須塩原に比べ、観光客は少ないが、ニッチな観光客を集めるスポットもある。那須塩原市の市役所が近くにあり、黒磯駅はコンパクトシティの中心地として整備が進む。

裂け目の建築 - 散らばる壁と屋根



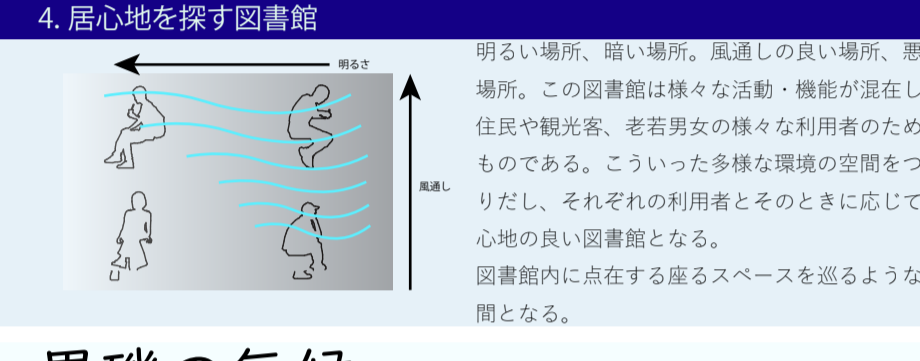
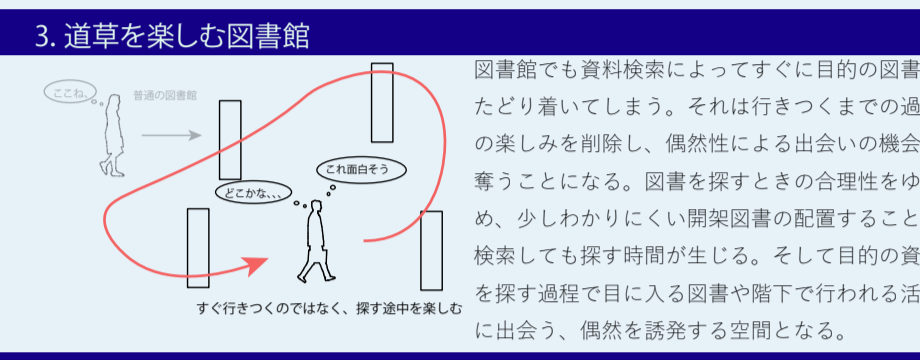
メインライブラリーとしての2階
すぐに見つけた本を参照できるように、閲覧室と開架図書を入り乱れるように配置する。光と風による環境にムラがあり、自らの快適に思ふ場所を選び、利用者は選べる。多様な本棚の配置によって、本を見つける楽しみ、目的ではない本にであう偶然性を重要視した配置計画とした。

屋内広場としての1階
多種多様な機能が混在し、様々な利用者がいる空間となる。通り抜けという外部空間と一体となった内部空間のデザインを心掛け、入ってみたいくなるファサードや半屋外空間を意識した。

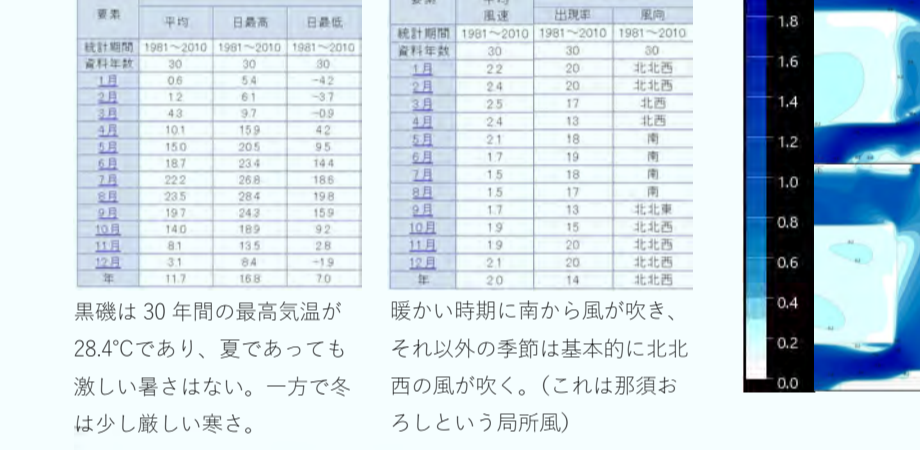


駅前「コンビニ」図書館

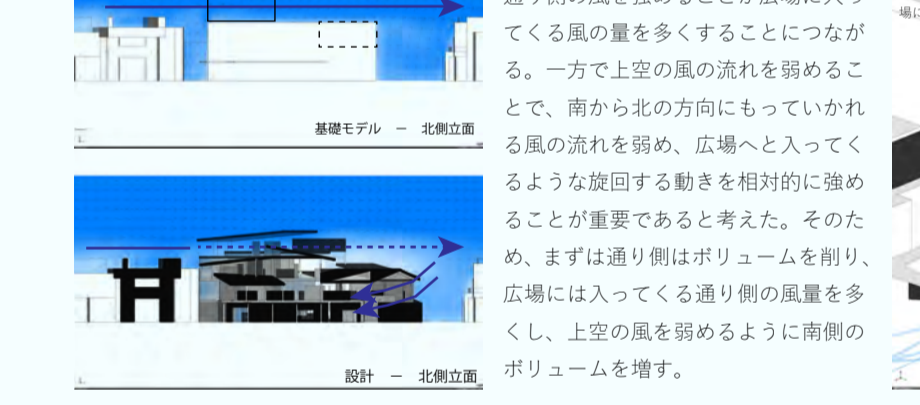
みんなでいたい、一人でいたい。でもみんなを眺めていたい。騒ぎたい、静かに落ち着いていたい。遊びたい、勉強したい。そういった様々な活動、利用者空間が小分けに入り乱れた「コンビニ」のような図書館を考える。



黒磯の気候 - study of wind



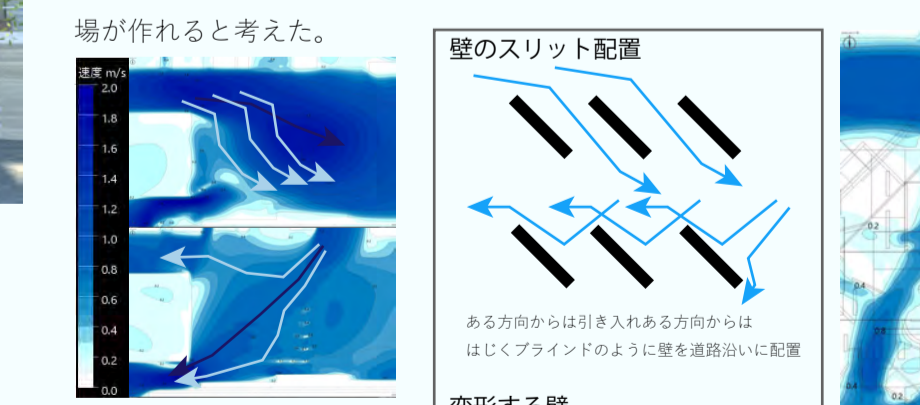
風をいなす屋根の傾き



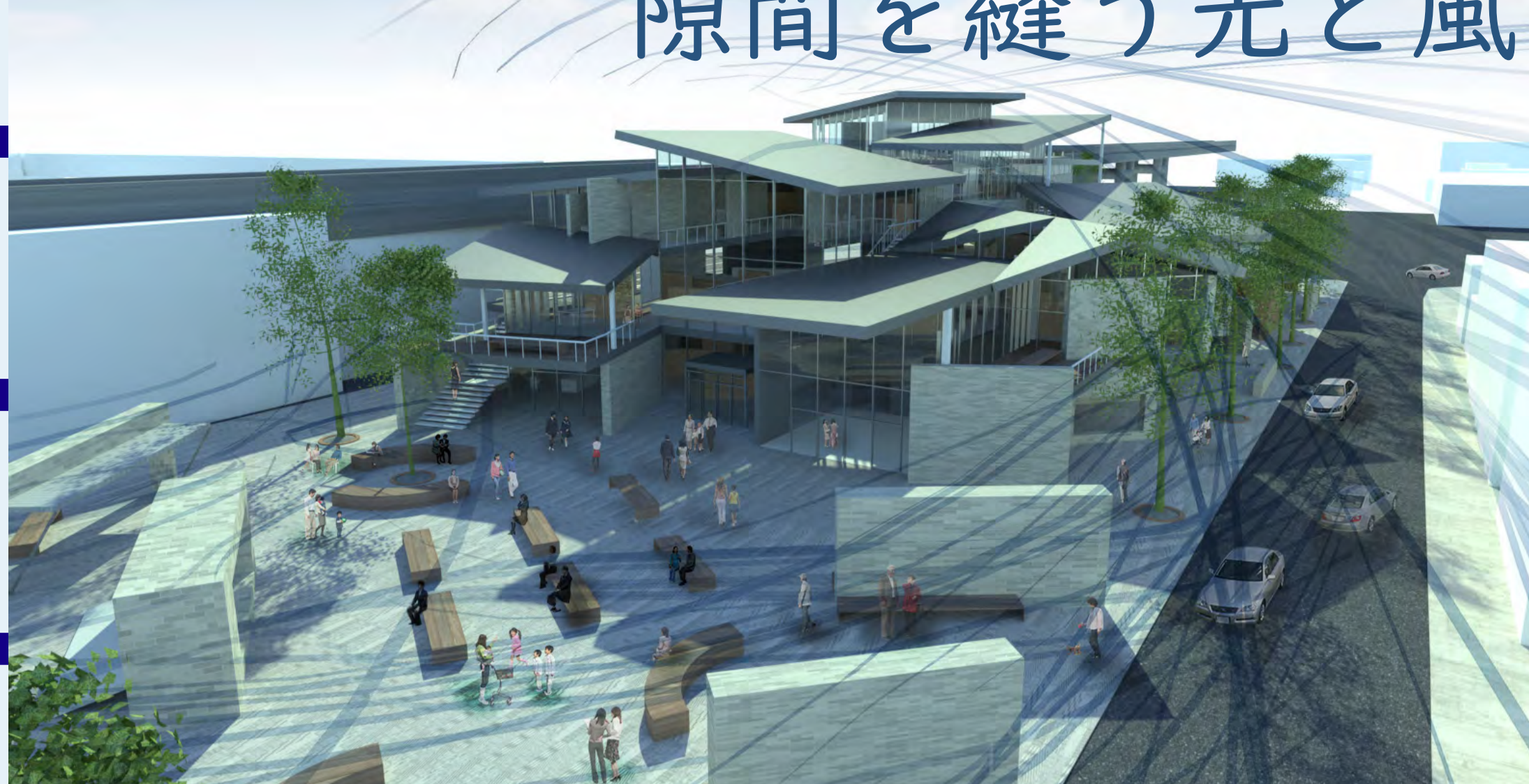
風環境の棲み分け



「原っぱ」な広場



隙間を縫う光と風



広場から考える図書空間

広場と一体的な図書館のあり方を模索し、多様な居心地のよい空間を生むという出発点で考えた。今までと異なり、機能から設計を考えるのではなく、数値化された純粋に空間の快適さからデザインを考えていく。そうすることで、演出じみでない「原っぱな」空間を作ることができるのではないかと考えた。

中間からの発展 - study of light



採光の分散



屋根の散らばり



光を遮る壁の連なり

